

## 〔資料紹介〕浅田正徹採譜楽譜

著者	星野 厚子
雑誌名	無形文化遺産研究報告
号	5
ページ	77-107
発行年	2011-03-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1440/00003151/">http://id.nii.ac.jp/1440/00003151/</a>





## 〔資料紹介〕 浅田正徹採譜楽譜

星野厚子

### 1. はじめに

東京文化財研究所無形文化遺産部（以後、東文研とする）では、旧芸能部時代に浅田正徹氏（あさだまさゆき・1900-1979）のご遺族から邦楽譜の原紙<sup>1)</sup>を一括して寄贈され、現在まで保管している。邦楽愛好家であった浅田氏は銀行員を本職とする傍ら採譜を行ったが、その没後、長唄演奏家の稀音家義丸氏を介して寄贈された。楽譜が収まっていた箱のメモには、「昭和六十秋 昭和六十一初夏」と記されており、それが寄贈の時期と推測されるが、すでに25年以上経過しているため、経緯などは詳らかではない。その原紙をもとに複写・製本したもの（以後、製本版とする）は旧芸能部時代に受入れており、これらはすでに公開している。このたび機会を得て、正式に原紙の紹介を行うこととなった。本稿ではこれらの楽譜を「浅田正徹採譜楽譜」とし、以後「浅田譜」と略称する。また、種目を区別して示す場合には「清元譜」などとする。なお、本稿は原紙の紹介が目的であるが、製本版にも触れながら話を進めてゆく。

原紙は東文研が所蔵するが、製本版は東文研のほか、東京藝術大学音楽学部邦楽研究室（以後、藝大邦楽研究室とする）、国立劇場、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館（以後、演劇博物館とする）、国立国会図書館（以後、国会図書館とする）など、諸機関に所蔵されていることがわかった。それらの情報を加味し、本稿の最後に「浅田正徹採譜楽譜一覧（稿）」（以後、「浅田譜一覧」とする）を示す。

### 2. 採譜者・浅田正徹

先述のとおり、浅田氏は銀行員（第一銀行）が本職であったが、若い頃から和歌・清元節・長唄など、日本文化に関心が深かった。大正5（1916）年、歌人・金子薫園の門下となり、「光風」の名を持ち歌人としての活動が始まる<sup>2)</sup>。邦楽との出会いは、勤務先の同僚の影響から清元節が最初であったという<sup>3)</sup>。大正12（1923）年、長唄三味線方の杵屋（杵家）弥七の三味線講習会に参加する。作歌活動も続けながら、昭和26（1951）年、51歳のときに長唄三味線方の杵屋六次郎に入門し、昭和28（1953）年、名取「杵屋六双」となった<sup>4)</sup>。

浅田氏が初めて採譜したのは昭和8（1933）年、長唄の「傾城」（通称「恋傾城」）であったという<sup>5)</sup>（ただし、この楽譜は資料には含まれていない）。清元節の作譜もそのころから志していたようだが、「もたもたしている内に書き溜めたものを戦火で失くしたので、戦後また始めて昭和三十年頃から刊行に踏み切った」<sup>6)</sup>と本人の言がある。昭和初期に清元延志朗千代のもとで稽古していたときの

手控えがまとまったことが清元楽譜刊行のきっかけであったようだ<sup>7)</sup>。昭和30(1955)年に銀行を定年退職し、最初の清元譜「卯の花」を刊行した。昭和39(1964)年、清元譜が50編を迎え、翌年の昭和40(1965)年にその功績により、評論等部門において第15回芸術選奨文部大臣賞を受賞している。その後、昭和41(1966)年からは一中節、昭和42(1967)年からは宮園節の楽譜刊行が始まった。確認できたもので刊行年代が一番新しい楽譜は常磐津節「将門」で(ただし、この原紙は寄贈資料の中には含まれていない)、その年代は浅田氏の晩年の昭和53(1978)年であった。よって楽譜刊行の期間は23年に及ぶ。なお、昭和49(1974)年には、文化庁より文化財保護審議会専門委員を委嘱されている。

浅田氏のご息女である神津早智子氏は、銀行在職中から夜毎コードリールのテープレコーダーの回転を遅くして、本手と上調子を聞き分けて採譜していた浅田氏の姿がとても印象に残っておられるという。銀行の仕事は後任者に事欠かないけれど、採譜の仕事は自分がやらなければ、という使命感をもって臨んでいたそうである。

芸術選奨文部大臣賞受賞からも浅田氏の功績は明らかであるが、田邊尚雄、町田佳聲、岸辺成雄、郡司正勝、ウィリアム・マームなど、日本音楽・演劇の研究者からの浅田氏への期待と評価は高いものであった<sup>8)</sup>。

### 3. 楽譜刊行への思い

浅田譜の製本版を所蔵する国立劇場には、清元節の試作版が所蔵されていた<sup>9)</sup>。これは「名集寿」(「名寄」と「卯の花」の合本で、原紙ではなく製本版である。刊記は昭和30(1955)年1月7日である。この日付は東文研などにある製本版の清元譜第1編「卯の花」の刊記と同じであるが、冒頭の「発刊の辞」の日付は「昭和二十九年晩秋」となっていた。浅田氏に関する資料の中で、管見では一番古いものであったため、以下に掲載する。

#### 発刊の辞

編者は長唄にはひる前から清元に執著し、自分の備忘のために譜本編纂を志してから既に二十年を越えますが、戦災で頓挫し、戦後稿を新たにして漸く初志を実現する処へ漕ぎ付けました。然し徒らに筐底に秘めて置くのは、之に費した手間ひまを考へると残念にも思はれるので、梓に上して同好諸賢に頒ち、伝統声曲の愛護保存に一役買ふと同時に、実演又は鑑賞の伴侶に供さうと考へました。清元も時代の移りにつれて曲の解釈も多少は変転し、表現の手法も改革され、生々流動して今日に至りました。節調の骨子は極って居ても、部分的には演奏者の個人差もあり、同じ人でも時によって工夫もあり、或ひは婦人ならば語り口を和らげるとか言ふ具合に変通自在な面がありますから、どの太夫の節廻し、どの三味線奏者の手も此の譜本の通りと言ふことは申せませんが、編著に当っては代表的な演奏に準拠し、三味線は勘所、撥数、運指とも総て基本的な定型(高輪派の現行)を記載しましたから、一応当代の清元の相貌は伝へ得た心算です。

此の譜本は既製の長唄譜本の亜流のやうな形ですが色々独自の新工夫を加へました。詳細は別冊音符



の解説を御覧下さい。はじめは節廻しの譜がくど過ぎるやうに思はれるでせうが、土台清元の曲節が精緻なので、それを斯うした略譜の可能性の限りに於て詳細をつくした訳です。節廻し音符と三味線音符との時間的間割りも忠実を期しました。譜面上の記載の少しのヅレも意味を持って居るのです。但し略譜の性格上節廻し音符の一部には実用面との妥協に依り簡便化した処のあることを申添へておきます。即ち小節<sup>こぶし</sup>を廻す処など、例へば十六分音符四つの総和が必ずしも正確に四分音符一個の値ひになってみないやうな不合理不徹底があります。此の点はなほ今後の研究に譲ることにします。曲に就いての故事来歴、詩句の考証などは、文献に詳しい識者に任せることにして、此譜本では簡略に従ひました。

手移し口伝へを伝統とする浄瑠璃に於て譜本の存在は良し悪しかも知れませんが、清元の普及保存には何よりも愛好者支持者をふやすことが第一と思ひますし、夫れには此のささやかな譜本も手引書として一臂の力を添へ得るのではないかと考へます。

今後出来るだけ続刊しますから、標準本又は筑波本として愛顧して下さい。此の複写版は鮮明を欠き甚だ不体裁ですが、専門家及識者にお願ひして校閲、批判、叱正を受けるための試作版です。決定版はオフセットにしたいと思つて居ます。

筑波双耳事 杵屋六双

昭和二十九年晩秋

また、『邦楽の友』1962年11月号には邦楽のアマチュア採譜者の座談会記事<sup>10)</sup>が掲載されているが、その中で浅田氏は、

譜というものに対する、私の考え方を説明させて頂くと、むろん楽譜は演技以前のものであり演奏技巧の実際は、師匠の前で習われ、体得するより仕方ありません。或いは、手移し、口伝えを伝統とする邦楽の世界で、譜などの存在の良否をやかましく言われるムキもあるかも知れませんが、一人でも人口を増やしてゆく意味からでも、譜というものの縁で、愛好者をそれぞれの世界に導入れる効果は決して少なくないと思っています。

『邦楽の友』1964年7月号<sup>11)</sup>では、「合理性を好む若いジェネレーションを斯ういう楽譜によって開眼させて清元人口を殖やしたいというのが筆者の<sup>(ママ)</sup>非願なのだが(後略)」と述べている。

以上から、自分の楽譜をきっかけに師匠に就いて稽古する人が現れ、享受層が厚くなり、結果的に清元節の普及・保存につながることを望んでいたようである。

また、浅田譜は長唄の譜の形式に則ったものだが(後述)、前掲の座談会の中で、

清元をやっている人は余り期待してない。むしろ他の流儀の人で、こんなものを使って一つ清元を弾いて見よう、唄って見ようという人々を対照<sup>(ママ)</sup>に考へている。がやってみて、仲々面白そうだが、どうも肝心な急所がはっきりつかめない。こりゃどうしても誰かお師匠さんの<sup>(ママ)</sup>トコへ弟子入りしなきゃ、ということになるー

結論として私は、例えば長唄の人……マァこれが一番人口が多いから、清元を弾いて見たいとする。私の譜を充分消化して練習して頂けば、どうやら恰好だけはつけられると思う。

と発言もしている。浅田譜の原則を理解する（すでにその形式の楽譜に馴染んでいて他の音曲にかかわっている）人をもターゲットとしていたようである。

以上は清元節についてであるが、一中節・宮蘭節など古曲の採譜について意欲的な発言もしている。宮蘭譜第1編「小春」（編了：1967年2月1日）の曲解説の後に、「私が作らなければ斯ういふものは所詮世に現はれまいと思ふ」とある。常磐津譜は「瓢箪鯨」（編了：1974年4月20日）がその最初であるが、譜の最後に「常磐津の採譜も何れはやつて見ようと思つてゐたが、他のことに追はれて手が廻らないでゐたところ、今度長友小塩高弘氏が杵屋三千寿さんの会で、瓢箪鯨を掛合ひで出すことになり、常磐津の譜本を是非にと懇願されたので（中略）図らずも之が常磐津譜本の第一篇といふことになつた」とある。長唄譜は「鉢の木」1曲（原紙のみ）であるが、「委嘱により作譜」と書かれていた。

#### 4. 浅田譜の特徴

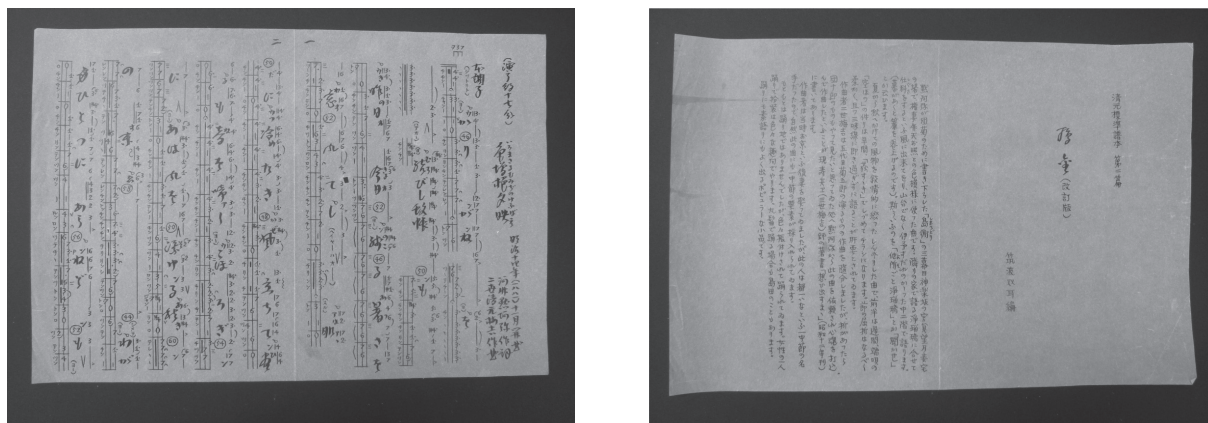
清元節など浄瑠璃の種目では、その音楽の性質、すなわち間を表記することの難しさ、語りに個人差があることなどの理由からか、浅田譜のようなまとまった曲数の刊行は、なされていなかったようである。邦楽譜の先行例としては、明治期の邦楽調査掛<sup>12)</sup>の五線譜による採譜のほか、長唄では吉住小十郎（1886-1933）による『新長唄稽古本』（研精会譜）、四世杵家弥七（1890-1942）による『三味線文化譜』（文化譜）、杵屋彌之介（青柳茂三・1902-1971）による『長唄研究稽古本』（青柳譜）などがある。全て数字譜であるが、研精会譜と青柳譜は縦書きで、数字は主として相対音高を示す〈音高譜〉である。文化譜は横書きで、数字はポジションを示す〈勘所譜〉である。

浅田氏は、邦楽の中でも長唄の愛好者が多いことなどから、長唄の〈音高譜〉の形式をとった。歌詞の左に三味線の譜を示したこと、唄の節にも音程をつけたこと、1小節は4分の2拍子の拍子割にしたこと、口三味線を表記したことなどは長唄の形式と同様である。とくに刊行初期の楽譜は青柳譜と大変よく似ている。それに加えて浅田氏は、清元譜第31編「道中双六」（編了：1960年12月25日）以降、メトロノームによる速度表記をこまかく配すようになった。また、楽譜の校訂者や、採譜の参考にした音源などを明記している。

#### 5. 浅田譜の概要

まず浅田譜の原紙の全体像を示し、整理の過程で明らかになった製本版も含めた浅田譜の概要を、いくつかの項目に分けて報告する。

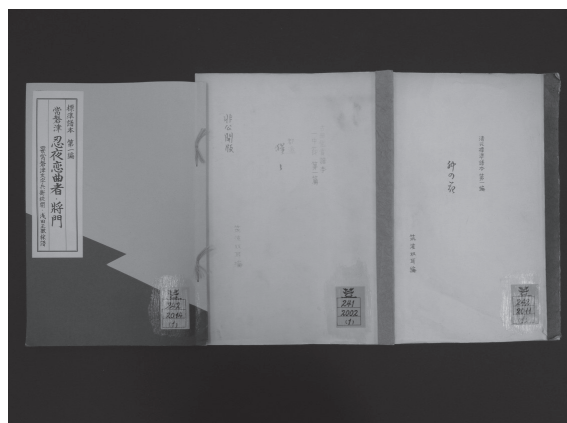
- ア. 形状：複写を目的とした楽譜の原紙。標準的なサイズ<sup>13)</sup>は22.0cm×31.4cm。
- イ. 保存状況：1曲ごとに散逸防止用に袋入、または間紙を挟みクリップ留め。
- ウ. 種目と曲数：清元節57曲<sup>14)</sup>・一中節21曲・宮蘭節16曲<sup>15)</sup>・長唄1曲・常磐津節1曲。
- エ. 記譜法：縦書き、数字（音高）譜、口三味線入り、速度表示入り（清元譜第31編以降）。
- オ. 基本の構成：曲解説・譜・後記<sup>16)</sup>
- カ. 譜本の名称：清元節＝「清元標準譜本」
  - 一中節＝「古曲鑑賞譜本 一中節」
  - 宮蘭節＝「古曲鑑賞譜本 宮蘭節」
  - 長唄＝「長唄譜本」
  - 常磐津節＝「常磐津鑑賞譜本」
- キ. 編者名：表紙は全て「筑波双耳<sup>17)</sup>」、刊記は「筑波双耳事浅田正徹」。



【図1】 浅田譜 原紙 清元節「雁金」

①原紙と製本版

原則として、1曲につき原紙は1つである。東文研では原紙のほかに製本版も所蔵しているが、東文研の製本版の数は、清元節90冊、一中節20冊、宮蘭節11冊、常磐津節1冊である（清元譜・一中譜・宮蘭譜は同じ体裁。サイズは24.0cm×17.0cm。常磐津譜のサイズは23.0cm×15.8cm。）。原紙の数と製本版の冊数が異なるのは、中には製本版のみで原紙のない曲もあること、一つの曲で改訂版が出ていることに関係する（改訂方法は後述）。



【図2】 浅田譜 製本版

また、浅田譜には既刊目録が存在し<sup>18)</sup>、それによると清元節は74曲<sup>19)</sup> 列举されているが、まずそのうちの2曲（「千羽鶴」「夕立塚」）は未刊の可能性があり、原紙・製本版ともに未見である。さらに、15曲分（「卯の花」「保名」「三千歳」「明烏 下」「柏若葉」「名寄」「神田祭」「権八 上」

「文屋」「お染」「助六」「山姥」「落人」「道中双六」「須磨下」) の原紙は見当たらないが、これらと同じ曲目の製本版は、ここに列挙した全ての機関に所蔵があった<sup>20)</sup>。

## ②採譜曲数

確認ができた浅田氏の最終的な採譜曲数を総計すると、清元節72曲<sup>21)</sup>、一中節21曲、宮藺節16曲<sup>22)</sup>、長唄1曲、常磐津節2曲の計112曲であった。

## ③刊行年代

楽譜の刊行年代は昭和30(1955)年から昭和53(1978)年の23年に及ぶ。刊行状況を別表「浅田譜刊行年代表」に掲出する。また、刊行開始から8年後の昭和38(1963)年より、雑誌『邦楽の友』への寄稿が始まった。その記事は採譜に関連したものが多く、本稿でも頻繁に引用した。『邦楽の友』の浅田氏による記事の題名と、浅田氏に関する記事で、他人が書いたものも斜体で掲出する。以下に凡例を示す。

・縦軸は年代(西暦)、横軸は譜面欄と『邦楽の友』の題名欄を設けた。

譜面欄は、清元節・一中節・宮藺節・その他(長唄・常磐津節)に区分した。この区分は「浅田譜一覧」の配列と一致している。細分類として、刊記を参考に、初版・改訂・再改訂の欄を設けた。改訂・再改訂がない場合は欄も設けなかった。刊記がないものは除外している。

・刊行年月日の若い順に、編数を算用数字にして記した。たとえば、「第一篇」は「01」となっている。この数字は「浅田譜一覧」の通し番号と一致している。

## ④刊行曲目の順番

結論としては、筆者は刊行順の法則をつきとめることはできなかった。しかし、採譜の過程に鑑みると、清元節に関しては浅田氏の稽古順、全体に関しては採譜の基になった音源の収録順、曲の知名度順など、さまざま推測できる。現段階で言えることは、事前にある程度の順番を決めて取りかかっていたように見受けられたことである。基本的には編数の若い順に順次刊行されているが、清元譜第9編「座頭」は、清元譜第16編「梅の春」のあとに刊行されている<sup>23)</sup>。この現象は採譜や校閲に時間を要したと考えるのが自然であろう。

## ⑤記譜法

縦書きの、主に相対音高を示す数字譜であることは全ての浅田譜に共通することであるが、清元譜では、3本の線を配して三味線の糸を対応させた長唄の青柳譜の形式に則った記譜(A)と、譜面の線は1本で、それを三味線の2の糸に対応させ、その線の左が1の糸、右が3の糸、という規則を持たせた記譜(B)の2種類が存在した。当初は改訂版として再版されたものがBの形式になったのかと推測したが、昭和41(1966)年2月1日の刊記がある清元譜第54編「吉野山」からは、それ以降の初版も改訂版もBの形式になっていた。「吉野山」刊行の昭和41年は一中節の刊行が始まった年であり、その翌年から宮藺節の刊行が始まっている。それらはBの形式



であるため、あるいは、一中節・宮籥節からはBの形式で記譜し、同時期に平行して行っていた清元節についても記譜の形式を切り替えたのかもしれない。

#### ⑥原紙の作成・印刷方法

楽譜の刊記をみてもわかるとおり、浅田氏は「編著者兼発行者」であった。そのため採譜だけでなく原紙の作成、印刷までみずから試行錯誤を重ねて行っていたようである。楽譜の後記に、印刷についての言があるので紹介する。

##### ・清元譜第8編「四君子」初版（1956年10月10日）の附記

譜本の印刷には今迄却々満足な方法が見あたらず苦勞しましたが、今度さる篤志家の御支援によりデンマーク製のエレクトロレックスといふ機械を使はして頂けることになりました。これは光電管の作用で下書通りの謄写版原紙が即座に作れる精巧な機械です。お蔭で体裁も御覧の通り面目一新し印刷部数も増え、一方勞力が軽減しました。従って今後続刊のピッチを上げることが可能になった訳です。

なほ宣伝に亘りますが此のエレクトロレックス機は銀座の文祥堂が輸入発売してをりまして代価は一台五十八万円です。

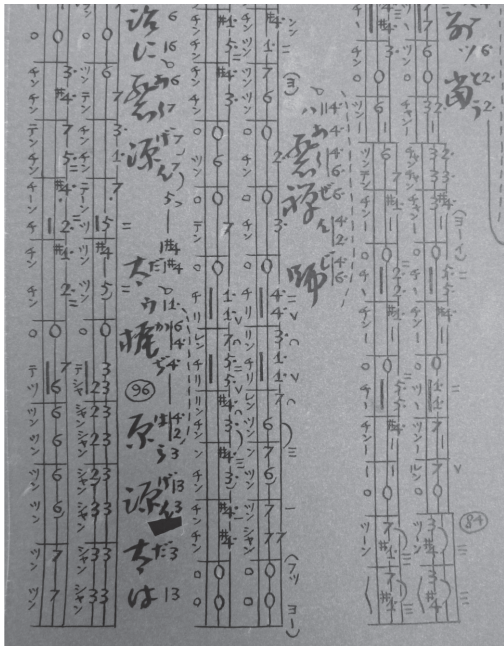
印刷博物館学芸員の本多真紀子氏のご教示によると、下書き原稿から印刷の版を作るには、鉄筆などでガリ切りしなければならなかったところを、この機械が導入されたことで、電気信号によって下書き原稿から自動で印刷用の版が作成可能になり、今までの勞力を大幅に軽減する夢のような機械だったのだろう、とのことである。

この「四君子」は改訂されており、初版の原紙はない。これ以降に刊行された楽譜で似通う体裁のものもあるが、これ以降の全ての浅田譜がこの印刷方法で行われたかはわからない。

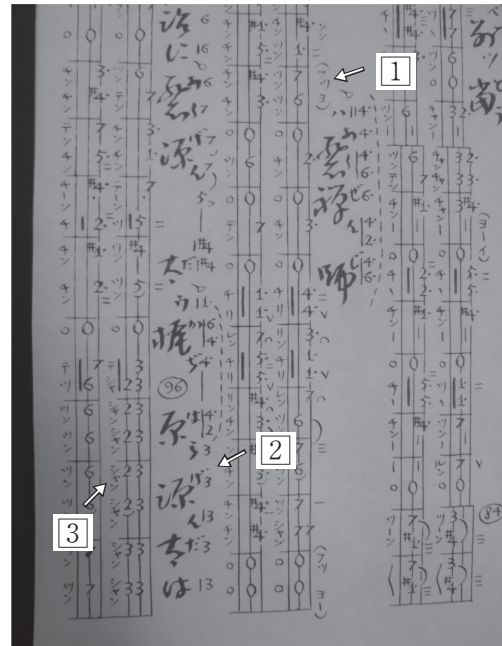
#### ⑦改訂方法

改訂版の作成は、一から書き直すのではなく初版の原紙をつかって何らかの方法で改訂したか、あらたに一から書き直して旧版は破棄したかと推測される。「浅田譜一覽」では、原紙と製本版それぞれの刊記を主な手がかりに照合し、それによる一応の対応関係を示した。また、東文研所蔵の製本版は刊記だけでなく全ての丁を原紙と照合したが、刊記が一致していても全ての内容は一致していないものがあることがわかった（【図3】【図4】参照）。おそらく、製本版を作ったあとに訂正箇所が見つかり、原紙を訂正したものと考えられる。訂正は、a) 加筆する、b) インクのついた部分を消す、c) インクのついた部分を切る、d) その用紙を差し替える、などの方法で行われていたようである。原紙と全く一致する製本版がどれであるかなどの細部にわたる調査は今後の課題となった。印刷時期がはっきりしているわけではないので、楽譜を入手した年月（機関であれば受入日など）が手がかりとなる場合もありそうである。





【図3】「三社祭」原紙



【図4】「三社祭」製本版

ここに清元譜第39編「三社祭」の例を挙げる。【図3】は原紙、【図4】は東文研所蔵の製本版である。原紙と製本版の刊記は一致し、別版は出されていない（「浅田譜一覽」参照）。しかし、【図4】に矢印で示した部分は、原紙とは異なっている。①は、この製本版が作られたときの原紙は、掛け声が「(フッヨ)」となっていたが、その後「(ヨ)」に修正している。②は原紙を切って、「源太」の「ん」の位置を少し上へ動かしている。また、「げん」の節の音価を変更している。③は三味線の1の糸の音を変更している。

## 6. おわりに

ここに紹介した浅田譜の原紙は、現在公開に向けての準備段階にある。資料の性質上、まずは劣化を防ぐために、これらの原紙をスキャンするなどの策を講ずる必要がある。そして近い将来、閲覧が可能な状態にする予定である。

また東文研では、時期は不明だが、浅田氏よりSPレコード120曲を寄贈された。そして浅田正徹コレクションとして整理を完了した。レコードの目録は改めて報告する予定である。

各機関の所蔵状況も併せて報告したが、機関の中には事前の申し込みの必要、複写制限などの規則が設けられていることがあるので、閲覧の場合にはそれらを考慮されたい。

今回の資料紹介にあたり、ご協力を賜った浅田氏のご息女の神津早智子氏、長唄演奏家の稀音家義丸氏、印刷博物館学芸員の本多真紀子氏、石橋圭一氏、所蔵機関各位に心より感謝申し上げます。

## 《注》

- 1) ここでは「印刷のもとになったもの」という意味でこの用語を使う。
- 2) 浅田氏の経歴については、ご息女の神津早智子氏よりご教示いただいた。
- 3) 浅田正徹「葛飾冗語―無題録」『邦楽の友』1965年7月号、54-57頁。
- 4) 前掲注2に同じ。なお、この杵屋六双という名は、清元譜第33編「須磨下」までの初版楽譜（製本版のみ）の刊記に見られる。
- 5) 浅田正徹「葛飾冗語―作譜内話」『邦楽の友』1964年7月号、35-37頁。
- 6) 前掲注5に同じ。
- 7) 浅田正徹「葛飾冗語―楽譜談義其他」『邦楽の友』1967年2月号、44-46頁。
- 8) 清元譜第1編「卯の花」序文、宮園譜第1編「小春」序文、前掲注5。
- 9) 資料番号 = F4-4/2-2/I
- 10) 「座談会「長唄・清元・小唄」―アマチュア―作譜家を囲んで―」『邦楽の友』1962年11月号、40-46頁。
- 11) 前掲注5に同じ。
- 12) 東京音楽学校内に設けられた、日本音楽の調査・保存を目的とした機関。
- 13) 用紙をはさみで切った形跡があり、全てが同じ大きさではないため「標準的」とした。
- 14) 同一曲で上と下に分けて採譜したものは別に計算している。
- 15) 楽譜としては13冊、その中で2曲を合冊してあるものが3冊あるので、曲数は16曲である。また、同一曲で上と下に分けて採譜したものは別に計算している。
- 16) 部分的に具体例を挙げながら、演奏者による奏法の違いや、既刊目録、印刷方法などを補記していることが多い。
- 17) 神津早智子氏によると、下町で生まれ育った浅田氏は、当時そこから見える筑波山が大好きで、画家に絵を描かせたほどだったそうである。筑波山にはふたつの嶺があり、それを「耳」に見立てたという。
- 18) 清元の既刊目録は原紙とともに箱に入っていた。一中節・宮園節は、各楽譜の最後に時々掲載されていた。
- 19) 前掲注14に同じ。
- 20) 演劇博物館は第30編までの所蔵のため、第31編以降は演劇博物館以外の機関を対象として考えた。
- 21) 前掲注14に同じ。
- 22) 前掲注15に同じ。
- 23) 別表参照。



## 浅田正徹採譜楽譜一覧（稿） 凡例

1. 本一覧は、東文研が所蔵する、浅田正徹氏が採譜した邦楽譜の、原紙と製本版の対応関係を示したものである。
2. 一覧の配列は、清元節、一中節、宮園節、その他の4つに区分し、その他には長唄、常磐津節をまとめた。
3. 本一覧は、浅田譜の原紙の紹介が目的であるが、曲によっては製本版しかないものもあるため、製本版にも触れることになった。
4. 曲目の区別には実線を用いた。同一曲で、原紙と製本版の両方の所蔵がある曲のうち、それらを区別する必要がある場合には点線を用いた。区別の判断は、初版、改訂版などの表紙の表記、刊記を主な手がかりにした。  
 なお、調査を進めていくうちに、刊記や体裁が一致していても記載内容が全て一致しているわけではないものもあることがわかったため（本文参照）、対応関係は目安とされたい。
5. 一覧の項目には、通し番号、譜本番号、曲名、曲名付記、内題、内容、形式、刊記、編著者名、東文研原紙、製本版、備考を設けた。各欄の記入事項は以下のとおりである。
  - (1) 通し番号  
 各曲に番号を付した。
  - (2) 譜本番号  
 各譜本に記されている編数の表記をそのまま記した。  
 たとえば、「清元標準譜本 第一篇」などである。
  - (3) 曲名  
 譜本の、表紙に当たる部分に書かれた曲名をそのまま記した。
  - (4) 曲名付記  
 (3)の曲名の前後の記載事項をそのまま記した。  
 たとえば、「改訂版」「上調子入り」などである。  
 該当するものが無いときには「—」を記した。
  - (5) 内題  
 譜が始まる直前に記された曲名を内題とし、そのまま記した。内題に付されたルビを「内題よみ」とし、部分的にルビがある場合には濃淡をつけ、ルビの無いものには何も記さなかった。
  - (6) 内容  
 浅田譜の構成を頁番号とともに記した。頁番号は算用数字に直し、頁番号の振っていないところは括弧で補った。

## (7) 形式

譜の形式が3線か1線かの区別を記した。

## (8) 刊記

編著者名以外の、年月日の情報を記した。ただし、和暦は西暦に改めた。また、「初版」、「編了」、「改訂」、「改訂再版」など、刊行の時期を示す情報がさまざまあるため、何がいつ行われたかを一目で判別できるよう、記載順序を入れ替えた。

たとえば、「昭和三十年一月七日初版」は、「初版：1955/01/07」としている。

## (9) 編著者名

刊記と同じ枠内に書かれている編著者名を記した。全て浅田正徹氏のことであるが、楽譜によってその書き方に違いが見られるため、欄を設けた。

## (10) 東文研原紙

東文研が所蔵する原紙の資料番号と枚数を記した。原紙が無い場合には「×」を記した。なお、資料番号は、編数に対応している。原紙が無い曲もあるため、番号が飛ぶ場合もある。

## (11) 製本版

丁数、所蔵機関を設けた。

丁数は、常磐津節以外は表紙・裏表紙を含んだ数である。また、所蔵機関の内訳として、東文研のほか、藝大邦楽研究室、国立劇場、演劇博物館、国会図書館があり、項目は、それぞれ、東文研、藝大、国立、演博、国会とした。なお、国会本には正本・複本の2セットが所蔵されていたため、それらの欄を設けた。

所蔵がある場合は、すべての欄に基本的に2つの情報を記した。1段につき1つの情報とし、1段目には各機関の資料請求番号、2段目には資料に付された年月日（受入れの際の日付）を記した。

なお、東文研の受入年月日は1981年2月10日となっていたが、裏表紙にそれより過去の年月日の入った印が押されている製本版があった。1981年2月10日は一括して整理を行った日付と考えられる。受入（寄贈）時期は印刷時期の手がかりになるもののため（本文参照）、本一覧では裏表紙に印がある場合にはその情報を優先し、無いものには1981年2月10日と記すこととした。

所蔵されていても該当する情報が全くなかった場合には単に「○」を記した。

所蔵がないものには「×」を記した。

各機関の所蔵本の、書誌に関する特記事項は、備考欄ではなくこの欄に記した。

## (12) 備考

楽譜の校訂者・協力者などがわかるものについては最優先に記した。そのほか、全ての項目を通して、補足すべきことをここに記した。



6. 漢字は通行の字体を用いることを原則としたが、曲名、内題、内題よみについては通行の字体以外の文字、あるいは歴史的仮名遣いを用い、2字以上の繰り返し記号はひらいた。

7. 一覧のあとに索引をつけた。この索引には2の区分は反映させず、本名題を軸とした五十音索引である。譜本曲名とは浅田譜の表紙の曲名、通し番号とは本一覧の通し番号であるが、その前に区分をつけた。

表記は原則として『日本音楽大事典』、『竹内道敬寄託文庫目録』（その二）豊後節、（その七）古曲の部に拠った。

## 浅田正徹採譜楽譜一覧 (稿)

## 【清元節】

通し 番号	譜本番号	曲名	曲名付記	内題 【内題よみ】	内容	形式	刊記	編著者名
01	清元標準譜本 第一篇	卯の花	—	賑民寿萬歳 【にぎはふたみこ とぶきまんざい】	序文ほか／譜1- 8／後記(9-10) ／跋(11-12)	3線	初版:1955/01/07 跋加筆: 1959/08/** 改訂再版: 1959/10/26	編著者兼発行者 杵屋六双事 浅田正徹
02	清元標準譜本 第二篇	雁金	改訂版	色増極夕映 【いろまさるもみち のゆふばえ】	曲解説／譜1-10 ／後記11-14  曲解説／譜1-9 ／後記10	3線  3線	初版印行: 1955/05/13 改訂再版: 1958/02/07 初版:1955/05/13 改訂:1958/02 再改訂編了: 1965/01/20	編著者 杵屋六双事 浅田正徹  編著者 筑波双耳事 浅田正徹
03	清元標準譜本 第三篇	北州	上調子付  改訂版 上調子付	北州千歳寿 【ほくしうせんねん のことぶき】	曲解説／譜1-13 ／後記14-18  曲解説／譜1-13 ／後記14-16	3線  1線	初版印行: 1955/06/11 改訂再版: 1958/05/17 初版:1955/06/11 再版:1958/05/17 三版:1965/11/03	編著者 杵屋六双事 浅田正徹  編著者 筑波双耳事 浅田正徹
04	清元標準譜本 第四篇	保名	上調子付	深山桜及兼樹振 【みやまばなどど かぬえだぶり】	曲解説／譜1-15 ／後記16	3線	初版:1955/10/18 改訂再版: 1958/07/20	編著者 杵屋六双事 浅田正徹
05	清元標準譜本 第五篇	夕立	改訂版 上調子付	貸浴衣汗雷 【かしくかたあせ になるかみ】	曲解説／譜1-8 ／後記9-12  曲解説／譜1-10 ／後記10	3線  1線	初版:1956/01/28 改訂再版: 1957/07/07 初版:1956/01/28 再版:1957/07/07 改訂三版: 1965/12/05	編著者 杵屋六双事 浅田正徹  編著者 筑波双耳事 浅田正徹
06	清元標準譜本 第六篇	六玉川	改訂版	六玉川	曲解説／譜1-13 ／後記13-14	3線	初版:1956/04/15 改訂:1965/01/10	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
07	清元標準譜本 第七篇	花がたみ	上調子付  改訂版	花筐 【はながたみ】	曲解説／譜1-8  曲解説／譜1-8	3線  1線	初版印行: 1956/09/01 改訂再版: 1959/09/25 初版:1956/09/01 改訂:1959/09/25 再改訂: 1969/11/30	編著者兼発行者 杵屋六双事 浅田正徹  編著者 筑波双耳事 浅田正徹
08	清元標準譜本 第八篇	四君子	改訂版 上調子付	四君子	曲解説／譜1-9 ／後記9-10  曲解説／譜1-9 ／後記10	3線  1線	印行:1956/10/01  初版:1956/10/01 改訂:1966/06/10	編著者 杵屋六双事 浅田正徹  編著者 筑波双耳事 浅田正徹
09	清元標準譜本 第九篇	座頭	改訂版	歌へすがへす餘波大津 絵 【かへすがへすなごりの おおつゑ】 歌へすがへす餘波大津 絵 【かへすがへすなごりの おおつゑ】	曲解説／譜1-13 ／後記13  曲解説／譜1-12 ／後記13-14	3線  3線	印行:1957/07/15  初版:1957/07/15 改訂:1964/12/10	編著者 杵屋六双事 浅田正徹  編著者 浅田正徹
10	清元標準譜本 第十篇	船頭	改訂版	歌へすがへす餘波大津 絵 【かへすがへすなごりの おほつゑ】 歌へすがへす餘波大津 絵 【かへすがへすなごりの おおつゑ】	曲解説／譜1-9 ／後記(10)  曲解説／譜1-9 ／後記10	3線  1線	印行:1957/08/04  初版:1957/08/04 改訂:1967/02/20	編著者 杵屋六双事 浅田正徹  編著者 筑波双耳事 浅田正徹
11	清元標準譜本 第十一篇	三千歳	—	忍逢春雪解 【しのびあふはる のゆきどけ】	曲解説／譜1-16 ／後記16	3線	印行:1958/04/05	編著者 杵屋六双事 浅田正徹
12	清元標準譜本 第十二篇	旅奴	改訂版	八段目旅奴	曲解説／譜1-7 ／後記(8-9)  曲解説／譜1-7 ／後記7-10	3線  1線	印行:1957/02/01  初版:1957/02/01 改訂:1967/04/30	編著者 杵屋六双事 浅田正徹  編著者 筑波双耳事 浅田正徹

東文研 原紙 資料番号, 単位: 枚	丁数	製本版						備考	
		所蔵機関							
		東文研	藝大	国立	演博	国会			
正本	複本								
×	10	242/2011/(1) 1960/05/16	ki/1	F4-4/2/1 1966/08/27	ト21/30 1963/03/05	YM511/4 1960/01/27	YM511/4a 1960/01/27		
×	9	242/2011/(2) 1960/05/16	×	×	ト21/30 1963/03/05	YM511/4 1958/03/26	YM511/4a 1958/03/26		
浅田 清元 2	6	7	242/2011/(3) 1981/02/10	ki/2	F4-4/2/2 1966/08/27	×	YM511/4 1967/02/02	×	
×	11	242/2011/(4) 1960/05/16	×	×	ト21/30 1963/03/05	YM511/4 1958/07/01	YM511/4a 1958/07/01		
浅田 清元 3	9	10	242/2011/(5) 1981/02/10	ki/3	F4-4/2/3 1966/08/27	×	YM511/4 1967/02/02	×	
×	10	242/2011/(6) 1960/05/16	ki/4	F4-4/2/4 1966/08/27	ト21/30 1963/03/05	YM511/4 1958/09/11	YM511/4a 1958/09/11		
×	8	242/2011/(7) 1960/05/16	×	×	ト21/30 1963/03/05	YM511/4 1957/08/09	YM511/4a 1957/08/09		
浅田 清元 5	6	7	242/2011/(8) 1981/02/10	ki/5	F4-4/2/5 1966/08/27	×	YM511/4 1967/02/02	×	
浅田 清元 6	8	9	242/2011/(9) 1981/02/10	ki/6 *9-10重複	F4-4/2/6 1966/08/27	ト21/30 1963/03/05	YM511/4 1967/02/02	×	
×	6	242/2011/(10) 1960/05/16	×	F4-4/2/7 1966/08/27	ト21/30 1961/11/13	YM511/4 1960/06/28	YM511/4a 1960/06/28		
浅田 清元 7	5	6	242/2011/(11) 1981/02/10	ki/7	×	×	×	×	
×	7	242/2011/(12) 1960/05/16	×	×	ト21/30 1963/03/05	YM511/4 1957/08/09	YM511/4a 1957/08/09	後記:印刷方法	
浅田 清元 8	6	7	242/2011/(13) 1981/02/10	ki/8	F4-4/2/8 1966/08/27	×	×	×	
×	9	242/2011/(14) 1960/05/16	×	×	ト21/30 1963/03/05	YM511/4 1957/10/04	YM511/4a 1957/10/04		
浅田 清元 9	8	9	242/2011/(15) 1981/02/10	ki/9	F4-4/2/9 1966/08/27	×	×	×	後記:音符略解
×	7	242/2011/(16) 1960/05/16	×	×	ト21/30 1963/03/05	YM511/4 1957/10/04	YM511/4a 1957/10/04		
浅田 清元 10	6	7	242/2011/(17) 1981/11/02	ki/10	×	×	×	×	参考:清元栄治
×	10	242/2011/(18) 1960/05/16	ki/11	F4-4/2/11 1966/08/27	ト21/29/2 1960/03/29	YM511/4 1959/01/14	YM511/4a 1959/01/14		
×	7	242/2011/(19) 1960/05/16	×	F4-4/2/12 1966/08/27	ト21/29/2 1960/03/29	YM511/4 1957/08/09	YM511/4a 1957/08/09		
浅田 清元 12	6	7	242/2011/(20) 1981/02/10	ki/12	×	×	×	×	

通し 番号	譜本番号	曲名	曲名付記	内題 【内題よみ】	内容	形式	刊記	編著者名
13	清元標準譜本 第十三篇	明鳥 上	—	明鳥花濡衣(山 名屋浦里部屋の 段)	曲解説／譜1-12	3線	印行:1957/05/28	編著者 杵屋六双事 浅田正徹 編著者 筑波双耳事 浅田正徹
			改訂版		曲解説／譜1-12	1線	初版:1957/05/28 改訂:1965/11/15	
14	清元標準譜本 第十四篇	明鳥 下	—	明鳥花濡衣(下) (山名屋奥庭の 段)	曲解説／譜1-9 ／後記10	3線	印行:1958/02/21	編著者 杵屋六双事 浅田正徹
15	清元標準譜本 第十五篇	女太夫	—	七小町容彩四季 【ないこまちすがた のさいしき】	曲解説／譜1-9 ／後記	3線	印行:1957/04/03	編著者 杵屋六双事 浅田正徹 編著者 筑波双耳事 浅田正徹
			改訂版		曲解説／譜1-9 ／後記9	1線	初版:1957/04/03 改訂刊行: 1969/10/01	
16	清元標準譜本 第十六篇	梅の春	—	梅の春	曲解説／譜1-11 ／後記11-12	3線	印行:1957/07/01	編著者 杵屋六双事 浅田正徹 編著者 筑波双耳事 浅田正徹
			改訂版 上調子付		曲解説／譜1-14	3線	初版:1957/07/01 改訂:1964/12/01	
17	清元標準譜本 第十七篇	かさね	—	色彩間苺豆 【いろもようちよつ とかりまめ】	曲解説／譜1-28	3線	印行:1958/10/10	編著者 杵屋六双事 浅田正徹 編著者 筑波双耳事 浅田正徹
			改訂版		曲解説／譜1-24	1線	初版:1958/10/10 改訂:1969/09/15	
18	清元標準譜本 第十八篇	十六夜	—	梅柳中宵月 【むめやなぎなか もよひづき】	曲解説／譜1-18	3線	印行:1957/12/15	編著者 杵屋六双事 浅田正徹 編著者 筑波双耳事 浅田正徹
			改訂版	梅柳中宵月 【うめやなぎなか もよひづき】	曲解説／譜1-17 ／後記18	1線	初版:1957/12/15 改訂版: 1969/02/07	
19	清元標準譜本 第十九篇	柏若葉	—	柏若葉	曲解説／譜1-9 ／後記9-12	3線	印行:1958/01/15	編著者 杵屋六双事 浅田正徹
20	清元標準譜本 第二十篇	名寄	—	豊春名集寿 【ゆたかなるなよ せのことぶき】	曲解説／譜1-7 ／後記8-10	3線	改訂再版: 1958/05/05	編著者 杵屋六双事 浅田正徹
21	清元標準譜本 第廿一篇	神田祭	上調子付	能色指図 【しめろやれいろ のかけごゑ】	曲解説／譜1-15 ／後記15-18	3線	印行:1958/10/09	著者兼発行者 杵屋六双事 浅田正徹
22	清元標準譜本 第廿二篇	権八 上	—	其小唄夢廓 【そのこうたゆめも よしはら】	曲解説／譜1-12	3線	印行:1958/08/04	著者兼発行者 杵屋六双事 浅田正徹
23	清元標準譜本 第廿三篇	文屋	—	六歌仙容彩 【ろつかせんすが たのいろどり】	曲解説／譜1-13 ／後記14-18	3線	印行:1959/01/20	著者兼発行者 杵屋六双事 浅田正徹
24	清元標準譜本 第廿四篇	白玉権九郎	上調子付	忍岡恋曲者 【しのおがをかこ ひはくせもの】	曲解説／譜1-17 ／後記17-18	3線	印行:1958/12/01	著者兼発行者 杵屋六双事 浅田正徹 編著者 筑波双耳事 浅田正徹
	改訂版 上調子付		曲解説／譜1-17 ／後記17-18		1線	初版:1958/12/01 改訂:1969/11/10		
25	清元標準譜本 第廿五篇	お染	—	道行浮崎鷗 【みちゆきうきねの ともどり】	曲解説／譜1-20	3線	印行:1959/03/10	著者兼発行者 杵屋六双事 浅田正徹
26	清元標準譜本 第廿六篇	助六	上調子付	助六曲輪菊 【すけろくくるわの もよぐさ】	曲解説／譜1-10	3線	印行:1958/12/25	著者兼発行者 杵屋六双事 浅田正徹
27	清元標準譜本 第廿七篇	山姥	—	月花茲友鳥 【つきとはなこゝに ともどり】	曲解説／譜1-12	3線	印行:1959/02/07	著者兼発行者 杵屋六双事 浅田正徹

東文研 原紙		製本版						備考	
資料番号	単位:枚	丁数	所蔵機関				国会		
			東文研	藝大	国立	演博	正本		複本
×		8	242/2011/(21) 1960/05/16	×	×	ト21/29/2 1960/03/29	YM511/4 1957/08/09	YM511/4a 1957/08/09	
浅田 清元 13	7	8	242/2011/(22) 1981/02/10	ki/13	F4-4/2/13 1966/08/27	×	×	×	
×		7	242/2011/(23) 1960/05/16	ki/14	F4-4/2/14 1966/08/27	ト21/29/2 1960/03/29	YM511/4 1959/01/14	YM511/4a 1959/01/14	
×		7	242/2011/(24) 1960/05/16	×	F4-4/2/15 1966/08/27	ト21/29/2 1960/03/29	YM511/4 1957/08/09	YM511/4a 1957/08/09	
浅田 清元 15	6	7	242/2011/(25) 1981/02/10	ki/15	×	×	×	×	
×		8	242/2011/(26) 1960/05/16	×	×	ト21/29/2 1960/03/29	YM511/4 1957/08/09	YM511/4a 1957/08/09	
浅田 清元 16	8	9	242/2011/(27) 1981/02/10	×	F4-4/2/16 1966/08/27	×	×	×	
×		16	242/2011/(28) 1960/05/16	×	F4-4/2/17 1966/08/27	ト21/29/2 1960/03/29	YM511/4 1957/10/04	YM511/4a 1957/10/04	
浅田 清元 17	13	14	242/2011/(29) 1981/02/10	ki/17	×	×	×	×	
×		11	242/2011/(30) 1960/05/16	×	F4-4/2/18 1966/08/27	ト21/29/2 1960/03/29	YM511/4 1958/02/13	YM511/4a 1958/02/13	
浅田 清元 18	10	11	242/2011/(31) 1981/02/10 *「改訂版」の 印	ki/18 *「改訂版」の 印	×	×	×	×	
×		8	242/2011/(32) 1960/05/16	ki/19	F4-4/2/19 1966/08/27	ト21/29/2 1960/03/29	YM511/4 1959/01/14	YM511/4a 1959/01/14	
×		7	242/2011/(33) 1960/05/16	ki/20	F4-4/2/20 1966/08/27	ト21/29/2 1960/03/29	YM511/4 1958/07/01	YM511/4a 1958/07/01	後記:既刊目録、二十 篇達成の辞
×		11	242/2011/(34) 1960/05/16	ki/21	F4-4/2/21 1966/08/27	ト21/29/3 1960/03/29	YM511/4 1959/03/05	YM511/4a 1959/03/05	
×		8	242/2011/(35) 1960/05/16	ki/22	F4-4/2/22 1966/08/27	ト21/29/3 1960/03/29	YM511/4 1958/09/11	YM511/4a 1958/09/11	
×		11	242/2011/(36) 1960/05/16	ki/23	F4-4/2/23 1966/08/27	ト21/29/3 1960/03/29	YM511/4 1959/04/23	YM511/4a 1959/04/23	
×		11	242/2011/(37) 1960/05/16	×	F4-4/2/24 1966/08/27	ト21/29/3 1960/03/29	YM511/4 1959/08/10	YM511/4a 1959/08/10	
浅田 清元 24	10	11	242/2011/(38) 1981/02/10	ki/24	×	×	×	×	
×		12	242/2011/(39) 1960/05/16	ki/25	F4-4/2/25 1966/08/27	ト21/29/3 1960/03/29 *複本 ト21/133	YM511/4 1959/04/23	YM511/4a 1959/04/23	
×		7	242/2011/(40) 1960/05/16	ki/26	F4-4/2/26 1966/08/27	ト21/29/3 1960/03/29	YM511/4 1959/03/05	YM511/4a 1959/03/05	
×		8	242/2011/(41) 1960/05/16	ki/27	F4-4/2/27 1966/08/27	ト21/29/3 1960/03/29	YM511/4 1959/04/23	YM511/4a 1959/04/23	



通し 番号	譜本番号	曲名	曲名付記	内題 【内題よみ】	内容	形式	刊記	編著者名
28	清元標準譜本 第廿八篇	申酉	—	再茲歌舞伎花轆 【またこにかぶきの はなだし】	曲解説／譜1-9 ／後記10	3線	印行:1959/05/05	著者兼発行者 杵屋六双事 浅田正徹
			改訂版		曲解説／譜1-9 ／後記10	1線	初版:1959/05/05 改訂:1969/10/30	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
29	清元標準譜本 第廿九篇	落人	—	道行旅路花簪 【みちゆきたび ぢのはなむこ】	曲解説／譜1-22 ／後記22	3線	印行:1959/07/20	編著者兼発行者 杵屋六双事 浅田正徹
30	清元標準譜本 第三十篇	浮かれ坊主	—	浮かれ坊主	曲解説／譜1-12 ／後記(13-14)	3線	印行:1959/08/04	編著者兼発行者 杵屋六双事 浅田正徹
			改訂版		七枚蓮花姿絵	曲解説／譜1-12	1線	初版:1959/08/04 改版:1967/10/10
31	清元標準譜本 第卅一篇	道中双六	—	春楼道中菱六 【さとのはるだう ちゆうすごろく】	曲解説／譜1-13 ／後記13-14	3線	印行:1960/12/25	編著者兼発行者 杵屋六双事 浅田正徹
32	清元標準譜本 第卅二篇	青海波	—	青海波	曲解説／譜1-13	3線	印行:1959/12/10	編著者兼発行者 杵屋六双事 浅田正徹
			改訂版		曲解説／譜1-13 ／後記14	1線	初版:1959/12/10 改訂:1974/07/30	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
33	清元標準譜本 第卅三篇	須磨 下	—	今様須磨写絵 (下) 【いまやうすまのう つしゑ】	曲解説／譜1-17 ／後記18-20	3線	印行:1960/02/15	編著者兼発行者 杵屋六双事 浅田正徹
34	清元標準譜本 第三十四篇	子守	—	大和い手向五字 【やまとがなたむ けのいつもじ】	曲解説／譜1-13 ／後記14	3線	編了:1963/10/15	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
35	清元標準譜本 第三十五篇	玉屋	上調子付	おどけ俄煮珠取 【おどけにわか しやぼんのたまどり】	曲解説／譜1-16	3線	編了:1963/10/25	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
36	清元標準譜本 第卅六篇	喜撰	上調子付	六歌仙容彩 【ろっかせんすが たのいろどり】	曲解説／譜1-23 ／後記24	3線	編了:1964/03/10	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
37	清元標準譜本 第三十七篇	梅川	—	道行故郷春雨 【みちゆきこきやう のはるさめ】	曲解説／譜1-16 ／後記17-18	3線	編了:1964/01/10	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
38	清元標準譜本 第三十八篇	お半	—	道行思案外 【みちゆきしあん のほか】	曲解説／譜1-23 ／後記24	3線	編了:1963/12/01	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
39	清元標準譜本 第卅九篇	三社祭	上調子付	弥生ノ花浅草祭	曲解説／譜1-19 ／後記19-20	3線	編了:1964/01/25	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
40	清元標準譜本 第四十篇	山帰り	—	山帰強桔梗 【やまがへりまけ ぬききやう】	曲解説／譜1-10 ／後記11-12	3線	編了:1963/09/15	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
41	清元標準譜本 第四十一篇	傀儡師	—	復新三組蓋 【またあたらしきみ つのさかづき】	曲解説／譜1-15 ／後記16	3線	編了:1963/08/25	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
42	清元標準譜本 第四十二篇	鳥刺し	—	祇園町一力の段	曲解説／譜1-12	3線	編了:1963/09/01 後一部修正	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
43	清元標準譜本 第四十三篇	四季三葉	上調子付	四季三葉草	曲解説／譜1-18 ／後記18	3線	編了:1964/03/25	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
44	清元標準譜本 第四十四篇	身替りお俊	—	其噂桜色時 【そのうわさくら のいろどき】	曲解説／譜1-25 ／後記26	3線	編了:1963/11/10 後一部修正	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
45	清元標準譜本 第四十五篇	吉原雀	上調子付	筐花手向橘 【かたみのなた むけのそでのか】	曲解説／譜1-19 ／後記20	3線	編了:1963/12/15 後部分修正	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
					曲解説／譜1-19 ／後記20	3線		

東文研 原紙		製本版						備考	
資料番号	単位:枚	丁数	所蔵機関				国会		
			東文研	藝大	国立	演博	正本		複本
×		7	242/2011/(42) 1960/05/16	×	F4-4/2/28 1966/08/27	ト21/29/3 1960/03/29	YM511/4 1959/08/10	YM511/4a 1959/08/10	
浅田 清元 28	6	7	242/2011/(43) 1981/02/10	ki/28	×	×	×	×	
×		13	242/2011/(44) 1960/05/16	ki/29	F4-4/2/29 1966/08/27	ト21/29/3 1960/03/29 *複本 ト21/134	YM511/4 1959/12/14	YM511/4a 1959/12/14	
×		9	242/2011/(45) 1960/05/16	×	×	ト21/29/3 1960/03/29	YM511/4 1960/01/27	YM511/4a 1960/01/27	後記:第三十篇刊行 の辞
浅田 清元 30	7	8	×	ki/30	×	×	×	×	
×		9	242/2011/(46) 1961/03/20	ki/31	F4-4/2/31 1966/08/27	×	YM511/4 1961/04/12	YM511/4a 1961/04/12	後記:三味線のサワリ に就て
×		9	242/2011/(47) 1960/05/16	ki/32	F4-4/2/32 1966/08/27	×	YM511/4 1960/06/28	YM511/4a 1960/06/28	参考音源:5世清元延 寿太夫
浅田 清元 32	8	9	242/2011/(48) 1981/02/10	×	×	×	×	×	参考音源:清元志寿 太夫
×		12	242/2011/(49) 1961/03/20	ki/33	F4-4/2/33 1966/08/27	×	YM511/4 1960/11/14	YM511/4a 1960/11/14	
浅田 清元 34	8	9	242/2011/(50) 1964/01/31	34	F4-4/2/34 1966/08/27	×	×	×	
浅田 清元 35	9	10	242/2011/(51) 1964/01/31	ki/35	F4-4/2/35 1966/08/27	×	×	×	
浅田 清元 36	12	14	242/2011/(52) 1981/02/10	ki/36	F4-4/2/36 1966/08/27	×	×	×	原紙:1-2欠
浅田 清元 37	10	11	242/2011/(53) 1964/01/31	ki/37	F4-4/2/37 1966/08/27	×	×	×	参考:清元勝寿郎
浅田 清元 38	13	14	242/2011/(54) 1964/01/31	ki/38	F4-4/2/38 1966/08/27	×	×	×	
浅田 清元 39	11	12	242/2011/(55) 1964/01/31	39	F4-4/2/39 1966/08/27	×	×	×	
浅田 清元 40	7	8	242/2011/(56) 1964/01/31	ki/40	F4-4/2/40 1966/08/27	×	×	×	
浅田 清元 41	9	10	242/2011/(57) 1964/01/31	ki/41	F4-4/2/41 1966/08/27	×	×	×	参考:清元勝寿郎
浅田 清元 42	7	8	242/2011/(58) 1964/01/31	ki/42	F4-4/2/42 1966/08/27	×	YM511/4 1963/12/20 *「修正」は ない	×	
浅田 清元 43	10	11	242/2011/(59) 1981/02/10	ki/43	F4-4/2/43 1966/08/27	×	×	×	
浅田 清元 44	14	15	242/2011/(60) 1964/01/31	ki/44	F4-4/2/44 1966/08/27	×	×	×	
×		12	242/2011/(61) 1964/01/31	×	F4-4/2/45 1966/08/27	×	×	×	
浅田 清元 45	11	12	×	ki/45	×	×	×	×	

通し 番号	譜本番号	曲名	曲名付記	内題 【内題よみ】	内容	形式	刊記	編著者名
46	清元標準譜本 第四十六篇	種蒔三番	— ----- 改訂版	再春松種蒔 【またのはるすづな のたねまき】	曲解説／譜1-20 ／後記20 曲解説／譜1-20 ／後記20	3線 ----- 1線	編了:1964/04/25 初版:1964/04/25 改訂:1969/09/10	編著者 筑波双耳事 浅田正徹 編著者 筑波双耳事 浅田正徹
47	清元標準譜本 第四十七篇	隅田川	—	隅田川	曲解説／譜1-22 ／後記22	3線	編了:1964/04/08	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
48	清元標準譜本 第四十八篇	鞍馬獅子	上調子付	夫婦酒替ぬ中仲 【めをとどげかはら ぬなかなか】	曲解説／譜1-28 ／後記28	3線	編了:1964/10/20	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
49	清元標準譜本 第四十九篇	幻椀久	—	幻椀久	曲解説／譜1-21	3線	編了:1964/09/20	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
50	清元標準譜本 第五十篇	玉兔	— ----- 改訂新版	玉兎月影勝 【たまりさぎつきの かげかつ】	曲解説／譜1-11 ／後記12-(14) 曲解説／譜1-11 ／後記12-(14)	3線 ----- 1線	編了:1964/11/10 初版:1964/11/10 改訂新版: 1971/09/25	編著者 筑波双耳事 浅田正徹 編著者 筑波双耳事 浅田正徹
51	清元標準譜本 第五十一篇	田舎源氏	—	田舎源氏露東雲 【いなかげんじつ ゆしのめ】	曲解説／譜1-21 ／後記22	3線	編了:1964/12/01	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
52	清元標準譜本 第五十二篇	新曲高尾懺悔	—	新曲高尾懺悔	曲解説／譜1-19 ／後記19-20	3線	編了:1966/01/15	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
53	清元標準譜本 第五十三篇	須磨 上	—	今様須磨写絵 (上) 【いまやうすまのう つしゑ】	曲解説／譜1-20 ／後記20	3線	編了:1966/01/25	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
54	清元標準譜本 第五十四篇	吉野山	—	幾菊蝶初音道行 【いづもきくてふは つねのみちゆき】	曲解説／譜1-24 ／後記25-26	1線	編了:1966/02/01	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
55	清元標準譜本 第五十五篇	鳥羽絵	—	御名残押絵交張 【おなごりおしゑ のまぜばり】	曲解説／譜1-12 ／後記12	1線	編了:1966/04/10	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
56	清元標準譜本 第五十六篇	夕霧 上	—	春夜障子梅(上) 【はるのよひしやう じのうめ】	曲解説／譜1-20 ／後記20 曲解説／譜1-20 ／後記20	1線 ----- 1線	編了:1966/07/20 編了:1966/07/20 一部修正: 1970/10/30	編著者 筑波双耳事 浅田正徹 編著者 筑波双耳事 浅田正徹
57	清元標準譜本 第五十七篇	夕霧 下	暫定版 抄	夕霧下(部分)暫 定版	譜1-5／後記5-6 譜1-5／後記5-6 ／譜(補遺7-8) ／後記(8)	1線 ----- 1線	編了:1973/01/08 編了:1973/01/08 (補遺): 1974/04/29	編著者 筑波双耳事 浅田正徹 編著者 筑波双耳事 浅田正徹
58	清元標準譜本 第五十八篇	雲助	—	花の雲助合肩 【はなのくもすけて あひかけ】	曲解説／譜1-19 ／後記20	1線	編了:1966/08/10	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
59	清元標準譜本 第五十九篇	流星	—	日月星昼夜織分 【じつげつせい ちゆうやのおりわ け】	曲解説／譜1-26 ／後記26	1線	編了:1966/12/15	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
60	清元標準譜本 第六十篇	幻お七	梅派	幻お七	曲解説／譜1-14 ／後記14	1線	編了:1968/01/15	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
61	清元標準譜本 第六十一篇	茶筌壳	—	詠梅松清元 【さきそむるれんり のきよもと】	曲解説／譜1-17 ／後記18	1線	編了:1967/01/15	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
62	清元標準譜本 第六十二篇	女車引	—	五諸車引哉袖襖 【ごしよぐるまひく やそでつま】	曲解説／譜1-9 ／後記10	1線	編了:1967/01/25	編著者 筑波双耳事 浅田正徹

東文研 原紙		製本版							備考
資料番号	単位:枚	丁数	所蔵機関				国会		
			東文研	藝大	国立	演博	正本	複本	
×		12	242/2011/(62) 1981/02/10	×	F4-4/2/46 1966/08/27 *複本あり	×	×	×	
浅田 清元 46	11	12	242/2011/(63) 1981/02/10	ki/46	×	×	×	×	
浅田 清元 47	12	13	242/2011/(64) 1981/02/10	*資料番号なし	F4-4/2/47 1966/08/27	×	×	×	*18頁の六下りの採譜は文化譜の形式
浅田 清元 48	15	16	242/2011/(65) 1981/02/10	ki/48	F4-4/2/48 1966/08/27	×	×	×	
浅田 清元 49	12	13	242/2011/(66) 1981/02/10	ki/49	F4-4/2/49 1966/08/27	×	×	×	
×		9	242/2011/(67) 1981/02/10	×	F4-4/2/50 1966/08/27	×	×	×	後記:既刊目録、第五十篇刊行の辞
浅田 清元 50	8	7	×	*資料番号なし	×	×	×	×	後記:既刊目録、第五十篇刊行の辞
浅田 清元 51	12	13	242/2011/(68) 1981/02/10	ki/51	F4-4/2/51 1966/08/27	×	×	×	
浅田 清元 52	11	12	242/2011/(69) 1981/02/10	ki/52	F4-4/2/52 1966/08/27	×	YM511/4 1967/02/02	×	校閲:清元勝寿郎
浅田 清元 53	11	12	242/2011/(70) 1981/02/10	ki/53	F4-4/2/53 1966/08/27	×	YM511/4 1967/02/02	×	校閲:清元勝寿郎
浅田 清元 54	14	15	242/2011/(71) 1981/02/10	ki/54	F4-4/2/54 1966/08/27	×	YM511/4 1967/02/02 *13-14重複	×	校閲:清元勝寿郎
浅田 清元 55	7	8	242/2011/(72) 1981/02/10	ki/55	F4-4/2/55 1966/08/27	×	YM511/4 1967/02/02	×	
×		12	242/2011/(73) 1981/02/10	×	F4-4/2/56 1966/08/27	×	YM511/4 1967/02/02	×	協力:清元栄治
浅田 清元 56	11	12	×	ki/56	×	×	×	×	協力:清元栄治
×		5	242/2011/(74) 1981/02/10	ki/57	×	×	×	×	清元志寿太夫『清元五十番』のレコードにある部分のみ
浅田 清元 57	5	6	242/2011/(75) 1981/02/10	×	×	×	×	×	初版に補遺を加筆したものの。
浅田 清元 58	11	12	242/2011/(76) 1981/02/10	ki/58	F4-4/2/58 1966/08/27	×	YM511/4 1967/02/02	×	協力:清元栄治
浅田 清元 59	14	15	242/2011/(77) 1981/02/10	×	×	×	×	×	協力:清元栄治
浅田 清元 60	8	9	242/2011/(78) 1981/02/10	ki/60	×	×	×	×	
浅田 清元 61	10	11	242/2011/(79) 1981/02/10	ki/61	×	×	×	×	校閲:清元勝寿郎
浅田 清元 62	6	7	242/2011/(80) 1981/02/10	ki/62	×	×	×	×	協力:清元栄治

通し番号	譜本番号	曲名	曲名付記	内題 【内題よみ】	内容	形式	刊記	編著者名
63	清元標準譜本 第六十三篇	権八 下	—	其小唄夢廓 【そのこうたゆめも よしはら】	曲解説／譜1-16 ／後記16	1線	編了:1967/03/21	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
64	清元標準譜本 第六十四篇	小糸	—	二世契縁綬糸 【にせのちぎりえ にしのかみいと】	曲解説／譜1-20	1線	編了:1969/09/30	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
65	清元標準譜本 第六十五篇	津山の月	—	津山の月	曲解説／譜1-17 ／後記17	1線	編了:1967/04/30	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
66	清元標準譜本 第六十六篇	文売	—	花紅葉土農工商	曲解説／譜1-12 ／後記12	1線	編了:1967/09/24	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
67	清元標準譜本 第六十七篇	長生	—	栄能春延寿 【さかえのはるの ぶることぶさ】	曲解説／譜1-15 ／後記15-16	1線	編了:1969/10/05	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
68		(千羽鶴)						
69	清元標準譜本 第六十九篇	出雲梅	—	出雲梅	曲解説／譜1-6	1線	編了:1969/09/20	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
70		(夕立塚)						
71	清元標準譜本 第七十一篇	お菊幸助	—	名酒盛色中波 【なさげざかりいろ のなかぐみ】	曲解説／譜1-20 ／後記(21-22)	1線	編了:1974/12/25	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
72	清元標準譜本 第七十二篇	調布玉川 (さし売)	—	調布玉川(さし 売) 【たつくりのたまが わ】	曲解説／譜1-8 ／後記8	1線	編了:1974/11/01	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
73	清元標準譜本 第七十三篇	糸の五月雨 (小菊半兵衛)	—	糸の五月雨(小 菊半兵衛)	曲解説／譜1-9 ／後記10	1線	編了:1974/11/15	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
74	清元標準譜本 第七十四篇	浅草の権八	—	比翼紋愛井の字 (浅草の権八) 【ひよくもんいとし みのじ】	曲解説／譜1-10	1線	編了:1974/11/10	編著者 筑波双耳事 浅田正徹

## 【一中節】

通し番号	譜本番号	曲名	曲名付記	内題 【内題よみ】	内容	形式	刊記	編著者名
01	古曲鑑賞譜本 一中節 第一篇	猩々	都派	(都派)一中節 猩々	曲解説／譜1-11 ／後記12	1線	編了:1966/01/07	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
02	古曲鑑賞譜本 一中節 第二篇	お夏笠物狂ひ	都派	(都派)お夏笠物 狂ひ	曲解説／譜1-13 ／後記14	1線	編了:1966/02/07	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
03	古曲鑑賞譜本 一中節 第三篇	信田妻	都派	一中節(都派)信 田妻	曲解説／譜1-10	1線	編了:1967/09/20	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
04	古曲鑑賞譜本 一中節 第四篇	唐崎心中	都派	(都派)唐崎心中	曲解説／譜1-10	1線	編了:1967/05/10 改訂:1969/04/01	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
05	古曲鑑賞譜本 一中節 第五篇	泰平船尽し	都派 上調子入り	(都派)一中節泰 平船尽し 【たいへいふなづ くし】	曲解説／譜1-20	1線	編了:1967/05/29	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
06	古曲鑑賞譜本 一中節 第六篇	石橋	都派	(都派)一中節石 橋	曲解説／譜1-17 ／後記18	1線	編了:1967/04/23	編著者 筑波双耳事 浅田正徹



東文研 原紙		製本版							備考
資料番号	単位:枚	丁数	所蔵機関				国会		
			東文研	藝大	国立	演博	正本	複本	
浅田 清元 63	9	10	242/2011/(81) 1981/02/10	ki/63	×	×	×	×	協力:清元栄治
浅田 清元 64	11	12	242/2011/(82) 1981/02/10	ki/64	×	×	×	×	
浅田 清元 65	10	11	242/2011/(83) 1981/02/10	ki/65	×	×	×	×	協力:清元松之助
浅田 清元 66	7	8	242/2011/(84) 1981/02/10	ki/66	×	×	×	×	
浅田 清元 67	9	10	242/2011/(85) 1981/02/10	ki/67	×	×	×	×	
×	×	×	×	×	×	×	×	×	未刊力
浅田 清元 69	4	5	242/2011/(86) 1981/02/10	ki/69	×	×	×	×	
×	×	×	×	×	×	×	×	×	未刊力
浅田 清元 71	12	12	242/2011/(87) 1981/02/10 *19-20の袋の 中に17-18が入 る	×	×	×	×	×	協力:清元延千恵八
浅田 清元 72	5	6	242/2011/(88) 1981/02/10	×	×	×	×	×	参考音源:2世清元延 古摩
浅田 清元 73	6	7	242/2011/(89) 1981/02/10	×	×	×	×	×	参考音源:2世清元延 古摩
浅田 清元 74	6	7	242/2011/(90) 1981/02/10	×	×	×	×	×	参考音源:2世清元延 古摩

東文研 原紙		製本版							備考
資料番号	単位:枚	丁数	所蔵機関				国会		
			東文研	藝大	国立	演博	正本	複本	
浅田 一中 1	8	8	241/2002/(1) 1981/02/10 *刊記なし、「非 公開版」と記載	○	F2-4/7/1 1985/10/31 *別版あり 1966/08/27	×	×	×	協力:都一中、都一い き(一中譜全冊に協力 か) *原紙:1枚目が2枚 (別版)
浅田 一中 2	8	9	241/2002/(2) 1981/02/10 *刊記なし、「非 公開版」と記載	○	F2-4/7/2 1985/10/31 *別版あり 1966/08/27	×	×	×	
浅田 一中 3	6	7	241/2002/(3) 1981/02/10 *「非公開版」と 記載	○	F2-4/7/3 1985/10/31	×	×	×	
浅田 一中 4	6	7	241/2002/(4) 1981/02/10 *改訂年月なし	○ *改訂年月なし	F2-4/7/4 1985/10/31	×	×	×	
浅田 一中 5	11	12	241/2002/(5) 1981/02/10 *「非公開版」と 記載	○	F2-4/7/5 1985/10/31	×	×	×	
浅田 一中 6	10	11	241/2002/(6) 1981/02/10	○	F2-4/7/6 1985/10/31	×	×	×	

通し 番号	譜本番号	曲名	曲名付記	内題 【内題よみ】	内容	形式	刊記	編著者名
07	古曲鑑賞譜本 一中節 第七篇	小町少将道行	都派	小町少将道行	曲解説／譜1-10	1線	編了:1967/09/02	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
08	古曲鑑賞譜本 一中節 第八篇	松がさね	都派 上調子入り	松襲	曲解説／譜1-13 ／後記13	1線	編了:1967/09/02	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
09	古曲鑑賞譜本 一中節 第九篇	椀久	都派	椀久道行上の巻	曲解説／譜1-13	1線	編了:1967/06/05	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
10	古曲鑑賞譜本 一中節 第十篇	鶉飼石和川	都派	都派 鶉飼石和川 【うかい いさわがわ】	曲解説／譜1-16	1線	編了:1968/07/29	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
11	古曲鑑賞譜本 一中節 第十一篇	都見物左エ門	都派	都見物左エ門	曲解説／譜1-17 ／後記18	1線	編了:1967/08/20	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
12	古曲鑑賞譜本 一中節 第十二篇	小春髪結	都派	都派 小春髪結 の段	曲解説／譜1-10	1線	編了:1968/12/17	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
13	古曲鑑賞譜本 一中節 第十三篇	辰巳の四季	都派	都派 辰巳の四 季	曲解説／譜1-13 ／後記14	1線	編了:1969/03/22	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
14	古曲鑑賞譜本 一中節 第十四篇	此頃草	都派	都派 此頃草	曲解説／譜1-15 ／後記15-16	1線	編了:1968/10/20	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
15	古曲鑑賞譜本 一中節 第十五篇	葎の夢	都派	葎の夢 【むぐらのゆめ】	前記／譜1-8	1線	編了:1968/10/01	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
16	古曲鑑賞譜本 一中節 第十六篇	松の羽衣	都派	都派 松の羽衣	曲解説／譜1-13 ／後記14-15	1線	編了:1972/09/24	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
17	古曲鑑賞譜本 一中節 第十七篇	家桜	都派	都派 家桜傾城 姿	曲解説／譜1-15	1線	編了:1972/11/03	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
18	古曲鑑賞譜本 一中節 第十八篇	競牡丹	都派	都派 競牡丹	曲解説／譜1-11	1線	編了:1973/10/01	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
19	古曲鑑賞譜本 一中節 第十九篇	根引の門松 (山崎)	都派	一中節 根引の 門松	曲解説／譜1-13	1線	編了:1973/09/10	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
20	古曲鑑賞譜本 一中節 第二十篇	尾上ノ雲賤機帯	都派	都派 尾上ノ雲 賤機帯	曲解説／譜1-22	1線	編了:1974/06/06	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
21	古曲鑑賞譜本 一中節 第二十一篇	都若衆萬才	都派	都若衆萬才	曲解説／譜1-10 ／後記10	1線	編了:1975/05/10	編著者 筑波双耳事 浅田正徹

## 【宮菌節】

通し 番号	譜本番号	曲名	曲名付記	内題 【内題よみ】	内容	形式	刊記	編著者名
01	古曲鑑賞譜本 宮菌節 第一篇	小春	千壽派	菌八節 小春治 兵衛炬燵の段	曲解説、序文／ 譜1-10／後記 10-(12)	1線	編了:1967/02/01	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
02	古曲鑑賞譜本 宮菌節 第二篇	鳥辺山	千壽派	鳥辺山(千寿派)	曲解説／譜1-15 ／後記15-16	1線	編了:1967/02/01	編著者 筑波双耳事 浅田正徹

東文研 原紙		製本版							備考	
資料番号	単位:枚	丁数	所蔵機関					国会		
			東文研	藝大	国立	演博	国会			
							正本	複本		
浅田 一中 7	6	7	241/2002/(7) 1981/02/10 *「非公開版」と記載	○	F2-4/7/7 1985/10/31	×	×	×		
浅田 一中 8	8	9	241/2002/(8) 1981/02/10 *「非公開版」と記載	○	F2-4/7/8 1985/10/31	×	×	×		
浅田 一中 9	8	9	241/2002/(9) 1981/02/10 *「非公開版」と記載	○	F2-4/7/9 1985/10/31	×	×	×		
浅田 一中 10	9	10	241/2002/(10) 1981/02/10 *「非公開版」と記載	○	F2-4/7/10 1985/10/31	×	×	×		
浅田 一中 11	10	11	241/2002/(11) 1981/02/10 *「非公開版」と記載	○	F2-4/7/11 1985/10/31	×	×	×		
浅田 一中 12	6	7	241/2002/(12) 1981/02/10 *「非公開版」と記載	○	F2-4/7/12 1985/10/31	×	×	×		
浅田 一中 13	8	9	241/2002/(13) 1981/02/10 *「非公開版」と記載	○	F2-4/7/13 1985/10/31	×	×	×		
浅田 一中 14	9	10	241/2002/(14) 1981/02/10 *「非公開版」と記載	○	F2-4/7/14 1985/10/31	×	×	×		
浅田 一中 15	5	6	241/2002/(15) 1981/02/10 *「非公開版」と記載	○	F2-4/7/15 1985/10/31	×	×	×		
浅田 一中 16	9	10	241/2002/(16) 1981/02/10 *「非公開版」と記載	○	F2-4/7/16 1985/10/31	×	×	×	後記:古曲鑑賞譜本 目録	
浅田 一中 17	9	10	241/2002/(17) 1981/02/10 *「非公開版」と記載	○	F2-4/7/17 1985/10/31	×	×	×		
浅田 一中 18	7	8	241/2002/(18) 1981/02/10 *「非公開版」と記載	×	F2-4/7/18 1985/10/31	×	×	×		
浅田 一中 19	8	9	241/2002/(19) 1981/02/10 *「非公開版」と記載	○	F2-4/7/19 1985/10/31	×	×	×		
浅田 一中 20	12	13	241/2002/(20) 1981/02/10 *「非公開版」と記載	○	F2-4/7/20 1985/10/31	×	×	×		
浅田 一中 21	6	7	×	○	F2-4/7/21 1985/10/31	×	×	×		

東文研 原紙		製本版							備考	
資料番号	単位:枚	丁数	所蔵機関					国会		
			東文研	藝大	国立	演博	国会			
							正本	複本		
浅田 宮菫 1	8	9	×	○	F2-4/7/22 1985/10/31	×	×	×	序文:郡司正勝、編者 後記:音符概説	
浅田 宮菫 2	9	10	242/2012/(2) 1981/02/10	○	F2-4/7/23 1985/10/31	×	×	×	校訂:4世宮菫千寿	

通し 番号	譜本番号	曲名	曲名付記	内題 【内題よみ】	内容	形式	刊記	編著者名
03	古曲鑑賞譜本 宮菫節 第三篇	道行菜種の乱 咲	千壽派	道行菜種の乱咲 (山崎)	曲解説／譜1-12 ／後記12	1線	編了:1967/03/01	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
04	古曲鑑賞譜本 宮菫節 第四篇	お半	千壽派	千寿派 桂川恋 の柵	曲解説／譜1-21 ／後記22	1線	編了:1967/02/25	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
05	古曲鑑賞譜本 宮菫節 第五篇	梅川／ほづき	千壽派	千寿派 道行相 合炬燵／ほづき	曲解説／<梅川> 譜1-6 <ほづき> >譜1-4／後記4	1線	編了:1967/02/11	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
06	古曲鑑賞譜本 宮菫節 第六篇	里の色系	千壽派	千寿派 里の色 糸(植木屋)	曲解説／譜1-15 ／後記16	1線	編了:1967/03/20	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
07	古曲鑑賞譜本 宮菫節 第七篇	おひな／歌の 中山	千壽派	千寿派 江戸の 絵姿／道行歌の 中山	曲解説／<おひ な>譜1-6／<歌 の中山>譜1-9/ 後記9	1線	編了:1967/07/10	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
08	古曲鑑賞譜本 宮菫節 第八篇	掛行燈	千壽派	道行縁の花房 【みちゆきえにし のはなぶさ】	曲解説／譜1-14 ／後記15-16	1線	編了:1972/01/01	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
09	古曲鑑賞譜本 宮菫節 第九篇	口舌八景	千壽派	千寿派 口舌八 景	曲解説／譜1-17 ／後記18	1線	編了:1972/04/15	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
10	古曲鑑賞譜本 宮菫節 第十篇	夕霧 上	千寿派	夕霧由縁の月見 【ゆうぎりゆかりの つきみ】	曲解説／譜1-13 ／後記14	1線	編了:1973/04/10	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
11	古曲鑑賞譜本 宮菫節 第十一篇	夕霧 下	千寿派	千寿派 夕霧 (下)	序文／譜1-13/ 跋13-14	1線	編了:1973/07/25	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
12	古曲鑑賞譜本 宮菫節 第十二篇	菫生の春	千壽派	千寿派 菫生の 春	曲解説／譜1-7 ／後記8	1線	編了:1974/05/20	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
13	古曲鑑賞譜本 宮菫節 第十三篇	袖屏風／お光	千壽派	道行袖屏風／お 光	曲解説／<袖屏 風>譜1-7／<お 光>譜1-4／後記 4	1線	編了:1975/09/25 (補正ずみ)	編著者 筑波双耳事 浅田正徹

## 【その他】

通し 番号	譜本番号	曲名	曲名付記	内題 【内題よみ】	内容	形式	刊記	編著者名
01	長唄譜本	鉢の木	試作版	鉢の木	譜1-16／後記16	3線	—	—
02	常磐津鑑賞譜本 第一篇	瓢箪鮫	—	瓢箪鮫	曲解説／譜1-11 ／後記12	1線	編了:1974/04/20	編著者 筑波双耳事 浅田正徹
03	標準譜本第一編	常磐津 忍夜 恋曲者・将門	四世常磐津 文字兵衛校 閨・浅田正 徹採譜	忍夜恋曲者 【しのおよるこひは くせもの】	解題ほか／譜1- 23	1線	発行:1978/10/**	常磐津標準譜 本刊行会

東文研 原紙		製本版							備考
資料番号	単位:枚	丁数	所蔵機関				国会		
			東文研	藝大	国立	演博	正本	複本	
浅田 宮菫 3	8	8	242/2012/(3) 1981/02/10	○	F2-4/7/24 1985/10/31	×	×	×	校訂:4世宮菫千寿 原紙:5-6が2枚(別 版)
浅田 宮菫 4	12	13	242/2012/(4) 1981/02/10	○	F2-4/7/25 1985/10/31	×	×	×	校訂:4世宮菫千寿
浅田 宮菫 5	6	7	242/2012/(5) 1981/02/10	○	F2-4/7/26 1985/10/31	×	×	×	校訂:4世宮菫千寿 「梅川」には刊記なし
浅田 宮菫 6	9	10	242/2012/(6) 1981/02/10	○	F2-4/7/27 1985/10/31	×	×	×	校訂:4世宮菫千寿
浅田 宮菫 7	9	10	242/2012/(7) 1981/02/10	○	F2-4/7/28 1985/10/31	×	×	×	校訂:4世宮菫千寿 「おひな」には刊記なし
浅田 宮菫 8	9	10	242/2012/(8) 1981/02/10	○	F2-4/7/29 1985/10/31	×	×	×	校訂:4世宮菫千寿 協力:久保喜久江(宮 園千幸寿)
浅田 宮菫 9	10	11	242/2012/(9) 1981/02/10	○	F2-4/7/30 1985/10/31	×	×	×	校訂:4世宮菫千寿 協力:久保喜久江(宮 園千幸寿)
浅田 宮菫 10	8	9	242/2012/(10) 1981/02/10	○	F2-4/7/31 1985/10/31	×	×	×	校訂:4世宮菫千寿 協力:宮園千幸寿(久 保喜久江)
浅田 宮菫 11	8	9	242/2012/(11) 1981/02/10	○	F2-4/7/32 1985/10/31	×	×	×	校訂:4世宮菫千寿 協力:宮園千幸寿(久 保喜久江) 「夕霧涙もろともに」より
浅田 宮菫 12	5	6	242/2012/(12) 1981/02/10	×	F2-4/7/33 1985/10/31	×	×	×	校訂:4世宮菫千寿 協力:宮園千幸寿(久 保喜久江)
浅田 宮菫 13	7	8	×	×	F2-4/7/34 1985/10/31	×	×	×	

東文研 原紙		製本版							備考
資料番号	単位:枚	丁数	所蔵機関				国会		
			東文研	藝大	国立	演博	正本	複本	
浅田 長唄 1	9	不明	×	×	×	×	×	×	
浅田 常磐津 1	8	8	242/2013 1981/02/10	×	×	×	×	×	協力:常磐津慶蔵 原紙:訂正前の1-2の 譜あり
×		17	242/2014(1) 1981/02/10	×	F3-4/3/1 1978/10/31	ト18/76 1978/12/26	×	×	校閲:4世常磐津文字 兵衛 訂正表あり



## 浅田正徹採譜楽譜一覧(稿) 索引

本名題よみ	本名題	譜本曲名	通し番号
あげがらすはなのぬれぎぬ	明烏花濡衣	明烏 上	清元 13
		明烏 下	清元 14
いえざくらけいせいすがた	家桜傾城姿	家桜	一中 17
いずもうめ	出雲梅	出雲梅	清元 69
いつもきくちょうはつねのみちゆき	幾菊蝶初音道行	吉野山	清元 54
いとのみみだれ	糸の五月雨	糸の五月雨	清元 73
いまようすまのうつしえ	今様須磨の写絵	須磨 上	清元 53
		須磨 下	清元 33
いろまさるもみじのゆうばえ	色増栴夕映	雁金	清元 02
いろもようちょっとかりまめ	色彩間荳蔻	かさね	清元 17
うかいいさわがわ	鶺鴒石和川	鶺鴒石和川	一中 10
うたのなかやま	歌の中山	歌の中山	宮蘭 07
うめのはる	梅の春	梅の春	清元 16
うめやなぎなかもよいづき	梅柳中宵月	十六夜	清元 18
えどのえすがた	江戸の絵姿	おひな	宮蘭 07
おどけにわかしゃぼんのたまとり	おどけ俄煮珠取	玉屋	清元 35
おなつかさものぐり	お夏笠物狂	お夏笠物狂ひ	一中 02
おのえのくもしずはたおび	尾上の雲賤機帯	尾上ノ雲賤機帯	一中 20
おみつ	お光	お光	宮蘭 13
おんなごりおしえのまぜばり	御名残押絵交張	鳥羽絵	清元 55
かえすがえすおなごりおおつえ	歌へす歌へす余波大津絵	座頭	清元 09
		船頭	清元 10
かしゆかたあせになるかみ	貸浴衣汗雷	夕立	清元 05
かたみのはなたむけのそでのか	筐花手向橘	吉原雀	清元 45
かつらがわこいのしがらみ	桂川恋の柵	お半	宮蘭 04
からさきしんじゅう	唐崎心中	唐崎心中	一中 04
ぎおんまちいちりきのだん	祇園町一力の段	鳥刺し	清元 42
くさまくらつゆのたまかわ	草枕露の玉歌和	六玉川	清元 06
くぜつはっけい	口舌八景	口舌八景	宮蘭 09
くらべぼたん	競牡丹	競牡丹	一中 18
ことぶきいわうかしわのわかば	寿祝柏若葉	柏若葉	清元 19
このごろぐさ	此頃草	此頃草	一中 14
こはるかみゆいのだん	小春髪結の段	小春髪結	一中 12
こはるじへえこたつのだん	小春治兵衛炬燵の段	小春	宮蘭 01
こまちしょうしょうみちゆき	小町少将道行	小町少将道行	一中 07
ごしょぐるまひくやそでづま	五諸車引哉袖褻	女車引	清元 62
さかえのはるのぶることぶき	栄能春延寿	長生	清元 67
さきそむるれんりのきよもと	詠梅松清元	茶筌壳	清元 61
さとのいろいと	里の色糸	里の色糸	宮蘭 06
さとのはるどうちゅうすごろく	青楼春道中双六	道中双六	清元 31
しきさんばそう	四季三葉草	四季三葉	清元 43
しくんし	四君子	四君子	清元 08
しちまいつづきはなのすがたえ	七枚続花の姿絵	浮かれ坊主	清元 30
しのだづま	信田妻	信田妻	一中 03
しのびあうはるのゆきどけ	忍逢春雪解	三千歳	清元 11
しのびよるこいはくせもの	忍夜恋曲者	将門	その他 03
しのぶがおかこいはくせもの	忍岡恋曲者	白玉権九郎	清元 24
しめろやれいろのかけごえ	メ能色相図	神田祭	清元 21

本名題よみ	本名題	譜本曲名	通し番号
しゃつきょう	石橋	石橋	一中 06
しょうじょう	猩々	猩々	一中 01
しんきょくたかおさんげ	新曲高尾懺悔	新曲高尾懺悔	清元 52
じつげつせいちゅうやのおりわけ	日月星昼夜織分	流星	清元 59
すけろくくるわのももよぐさ	助六曲輪菊	助六	清元 26
すみだがわ	隅田川	隅田川	清元 47
せいがいは	青海波	青海波	清元 32
せんばづるそらもうららか	千羽鶴空麗	千羽鶴	清元 68
そでびょうぶ	袖屏風	袖屏風	宮蘭 13
そのうのはる	菌生の春	菌生の春	宮蘭 12
そのうわささくらのいろどき	其噂桜色時	身替りお俊	清元 44
そのこうたゆめもよしわら	其小唄夢廓	権八 上	清元 22
		権八 下	清元 63
たいへいふなづくし	泰平船尽	泰平船尽し	一中 05
たつくりのたまがわ	調布玉川	調布玉川	清元 72
たつみのしき	辰巳の四季	辰巳の四季	一中 13
たまうさぎつきのかげかつ	玉兔月影勝	玉兔	清元 50
つきとはなここにともどり	月花茲友鳥	山姥	清元 27
つやまのつき	津山の月	津山の月	清元 65
とりべやま	鳥辺山	鳥辺山	宮蘭 02
なさげざかりいろのなかくみ	名酒盛色の中汲	お菊幸助	清元 71
ななこまちすがたのさいしき	七小町容彩四季	女太夫	清元 15
なにゆうがおあめのふるでら	名夕顔雨の旧寺	田舎源氏	清元 51
にぎわうたみことぶきまんざい	賑民寿万歳	卯の花	清元 01
にじりがきななついろは	拙筆力七以呂波	瓢箪鯰	その他 02
にせのちぎりえにしのかみいと	二世の契縁綬糸	小糸	清元 64
ねびきのかどまつ	根曳の門松	根引の門松	一中 19
はちだんめたびやっこ	八段目旅奴	旅奴	清元 12
はちのき	鉢の木	鉢の木	その他 01
はながたみ	花がたみ	花がたみ	清元 07
はなのくもすけてあいかた	花雲助合の肩	雲助	清元 58
はなもみじしのうこうしょう	花紅葉土農工商	文売	清元 66
はるのよしょうじのうめ	春夜障子梅	夕霧 上	清元 56
		夕霧 下	清元 57
ひよくもんいとしいのじ	比翼紋愛井の字	浅草の権八	清元 74
ほうづき	ほうづき	ほゝづき	宮蘭 05
ほくしゅうせんねんのことぶき	北州千歳寿	北州	清元 03
またあたらしくみつのさかずき	復新三組盞	傀儡師	清元 41
またくるはるすずなのたねまき	再春菘種蒔	種蒔三番	清元 46
またここにかぶきのはなだし	再茲歌舞伎花轆	申酉	清元 28
まつがさね	松襲	松がさね	一中 08
まつのはごろも	松羽衣	松の羽衣	一中 16
まぼろしおしち	幻お七	幻お七	清元 60
まぼろしわんきゅう	幻椀久	幻椀久	清元 49
みちゆきあいあいごたつ	道行相合炬燵	梅川	宮蘭 05
みちゆきうきねのともどり	道行浮疇鷗	お染	清元 25
みちゆきえにしのはなぶさ	道行縁の花房	掛行燈	宮蘭 08
みちゆきこきょうのはるさめ	道行故郷の春雨	梅川	清元 37
みちゆきしあんのほか	道行思案余	お半	清元 38
みちゆきたびじのはなむこ	道行旅路の花聾	落人	清元 29

本名題よみ	本名題	譜本曲名	通し番号
みちゆきなたねのみだれざき	道行菜種の乱咲	道行菜種の乱咲	宮藪 03
みやこけんぶつぎえもん	都見物左衛門	都見物左エ門	一中 11
みやこわかしゅまんざい	都若衆万歳	都若衆萬才	一中 21
みやまのはなとどかぬえだぶり	深山桜及兼樹振	保名	清元 04
むぐらのゆめ	菫の夢	菫の夢	一中 15
めおとざけかわらぬなかなか	夫婦酒替奴中仲	鞍馬獅子	清元 48
やまがえりまけぬききょう	山帰強桔梗	山帰り	清元 40
やまとなたむけのいつもじ	大和い手向五字	子守	清元 34
やよいのはなあさくさまつり	弥生の花浅草祭	三社祭	清元 39
ゆうぎりゆかりのつきみ	夕霧由縁の月見	夕霧 上	宮藪 10
		夕霧 下	宮藪 11
ゆうだちづかはるのいなずま	夕立碑春電	夕立塚	清元 70
ゆたかのはるなよせのことぶき	豊春名集寿	名寄	清元 20
ろっかせん(うたあわせ)すがたのいろどり	六歌仙容彩	文屋	清元 23
		喜撰	清元 36
わんきゅうみちゆき	椀久道行	椀久	一中 09

**[Summary]**

## Scores of Japanese Music Transcribed by ASADA Masayuki

HOSHINO Atsuko

In this paper, original copies of Japanese music scores stored at the Department of Intangible Cultural Heritage of the National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo are introduced. These scores were transcribed by ASADA Masayuki, a banker and a devotee of Japanese music, and donated by his family after his death. The collection includes scores of Japanese music of the Edo period such as *kiyomoto-bushi*, *itchu-bushi*, *miyazono-bushi*, *nagauta* and *tokiwazu-bushi*. In all, original scores for 96 repertoires were confirmed. There are also scores that have been printed and bound based on these originals; these books have already been made public.

Japanese music is basically transmitted orally, and the scores related to *yoruri*, in particular, are difficult to express in written form and had not been published much. ASADA's scores are also based mainly on what he noted at the time he himself was practicing or transcribed from records. ASADA strongly wished that his scores would bring about an increase in the number of lovers of Japanese music.

The scores were published for over 20 years, starting from 1955. With some, changes and additions were made by ASADA even after the first edition and revised versions were published more than 10 years later.

The originals are stored only at the Department of Intangible Cultural Heritage of the National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo, but book versions are found at such institutions as the Tokyo University of the Arts, National Theatre of Tokyo, National Diet Library, and The Tsubouchi Memorial Theatre Museum Waseda University. A table of the complete collection is given at the end.



雁金 (改訂版)

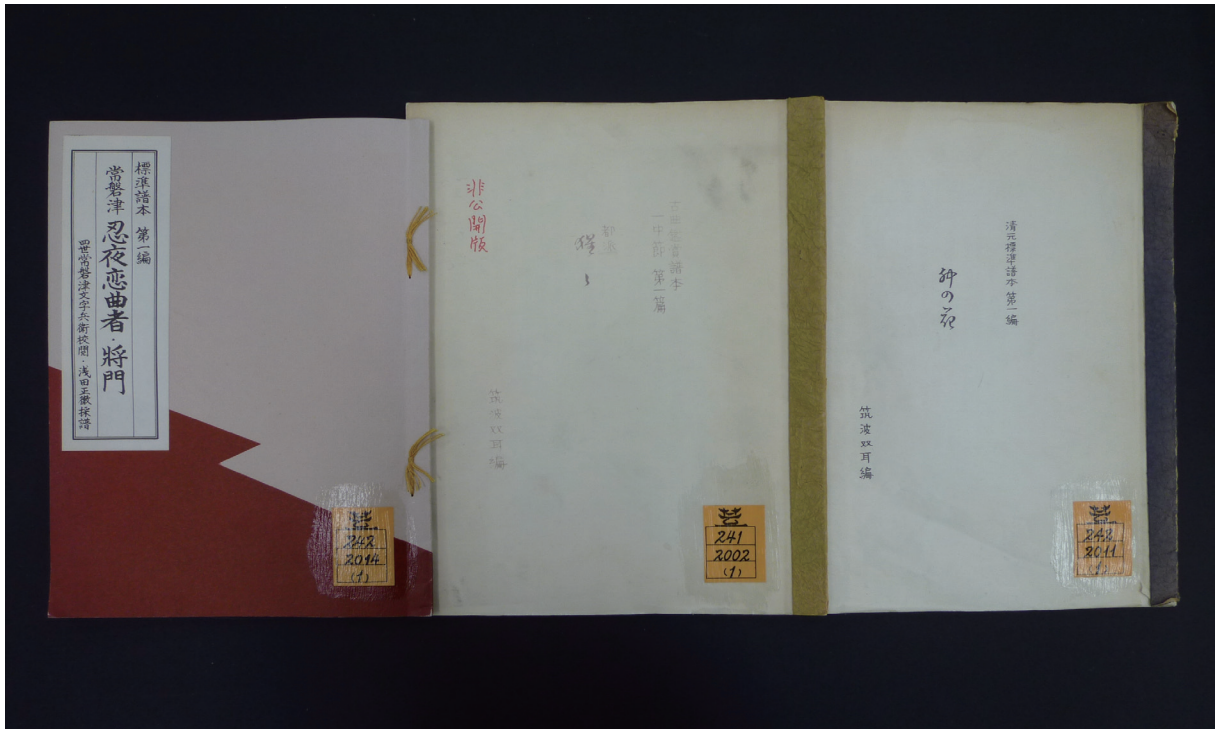
竹取波双耳編

黙河路が雨菊のために書き下ろした。島衛の三幕目神楽坂の官員望月若宅  
 の場で権季奉天お照との色模様に使った曲で。隣りの女を語る浄瑠璃に合せて  
 仕舞をするといふ風に出来て。山台でなく伊予守だののカーアの中二階で語りませ。  
 (茶があく)と箏を巻上げるのです。斯ういふのを「他版」と浄瑠璃とが「聞かせ」  
 と云ひます。  
 「夏は秋へかけての風物を微情的に綴ったしんみりした曲で。前半は邊間端唄の  
 「空ほつ」の件りは早間「秋すき」でしめてテランになります。止即の屈折はなるべ  
 子なく、且つ三味線に即き過ぎず、語ることが肝要とされています。  
 作曲者二世梅吉は五代目菊五郎の唄もこの作曲を随分しました。折がアツタ  
 田子即のものをやってみたと、思ふに黙河路から此の曲を依頼し、心を打込  
 んで作曲したといふことが、現存本(三世梅吉)師の著書「想ひ出すま」昭和十二年刊)  
 に書かれてあります。  
 作曲者は当時おきと、お後妻を取つておましたが、此の人は都へなと、中節の名  
 手だったので、自然此の曲にも中節の要素が採り入れられておます。  
 中とは踊り地ではありませんでしたが、色々振付けされて踊られておます。女性の一人  
 踊りで扮装は色々な趣向でやります。丸舞で踊る場合も高田のこともありおます。  
 踊りにもま茶語りにもよく出るボ、ユラ、ユラ、な小曲です。

737  
 演了約十七分  
 本胡弓  
 演了約十七分  
 河津秋元作  
 二世清元梅吉作  
 昭和十一年(一九二〇)十月の作曲  
 竹取波双耳編

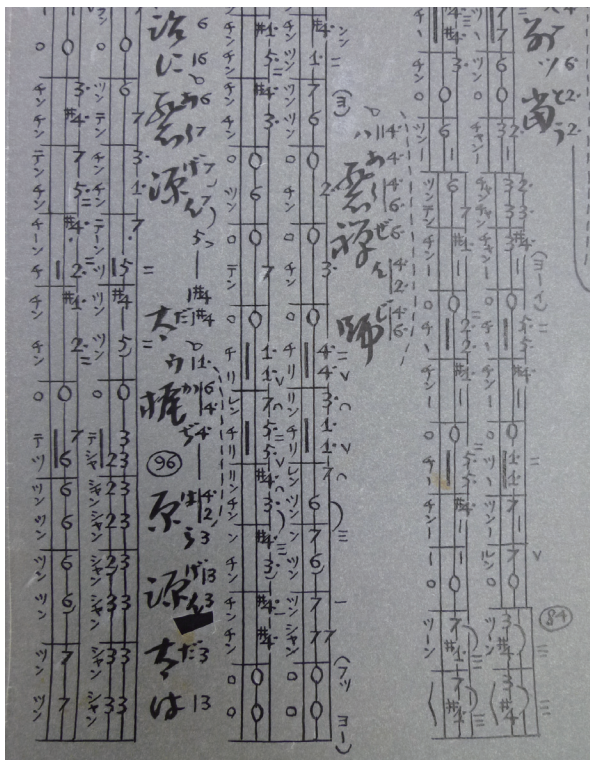
【図1】浅田譜原紙 清元節「雁金」



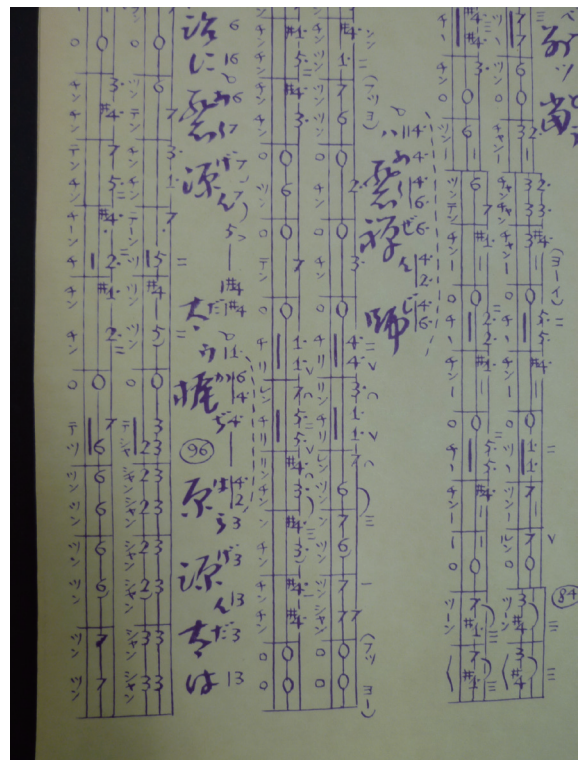


【図2】 浅田譜 製本版

(see p. 81)



【図3】「三社祭」原紙



【図4】「三社祭」製本版

(see p. 84)

Research and Reports on Intangible Cultural Heritage  
Number 5  
2011

Publisher:

National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo  
13-43 Ueno Park, Taito-ku, Tokyo, 110-8713, Japan

無形文化遺産研究報告 第5号

平成23年3月26日印刷

平成23年3月31日発行

編 集	独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 『無形文化遺産研究報告』編集委員会	
編集委員	無形文化遺産部長 無形文化財研究室長 音声・映像記録研究室長	宮田 繁 幸 高 桑 いづみ 飯 島 満
発 行	独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 〒110-8713 東京都台東区上野公園 1343 電話 03 (3823) 2241	

© 独立行政法人国立文化財機構  
東京文化財研究所 2011

National Research Institute for  
Cultural Properties, Tokyo